国際社会学部

2024 年度後期日程入学試験問題

小論文

正解・配点・解答例（200 点満点）

設問1　〔40 点〕
【解答例】
グローバル・サウスをどの国が構成するかは、地理的・経済発展の要素だけで決められているわけではなく、地政学的・歴史的事情もふまえて、自国はグローバル・サウスに属すると考える国が主観的に決めているから。（99字）

設問2　〔40点〕
【解答例】
グローバル・ノースは、グローバル・サウスに属さない諸国によって構成されていると考えられるが、それは後者の主観的な主張によって言えることで、前者に属していると主張する諸国が存在しているわけではないから。（100字）

設問3　〔40点〕
【解答例】
人権は、西洋諸国が自国に都合の良いように偽善的に決めているもので、気候変動や紛争や難民化に苦しむグローバル・サウスの人々を助けておらず、世界の全ての人々の実質的な平等の実現に役立っていないから。（97字）

設問4　〔80点〕
【解答例】
（B）の筆者は、自らがグローバル・サウスの立場にあると考えている。それは、人権はグローバル・サウスが採用すべきものではなく、全ての人々の基本的権利を守る別の方法が必要だ、という立場である。この立場は、「グローバル・サウス」概念に対する（A）の筆者の疑念からは、懐疑的に評価されるだろう。なぜなら（A）の筆者は、グローバル・サウスに属する国は主観的に決められ、グローバル・サウスに属するとする国々の主張は主観的な性格を帯びると考えているからである。そうなると人権を否定する新しい方法なるものも主観的になる恐れがあることになる。自分は、（A）の筆者の懐疑心は洞察にあふれ、（B）の筆者の主張には現実の矛盾を捉える妥当性がある。一方で、グローバル・サウスの概念の使用に主観的な要素が入り込む可能性は、グローバル・サウスなるものに実体的存在がない以上、必然的だと思われる。他方において、グローバル・サウスの言説を要請せざるを得ない構造的矛盾が現代世界に存在しているのも確かだ。（A）からは、主観的な主張を一方的に振り回して混乱を助長する危険を学べる。（B）からは、現実の矛盾に向き合って変革していくための努力を払うことの重要性を学べる。一見すると折り合いをつけることが難しい二つの文章それぞれが持つ意義を学び取り、両者の間の緊張感を常に意識しながら、現実と向き合い、思考し続けていくことが、大切である。
（597字）